

# 狭小地における既存躯体（2 世代）を利用した山留及び地下躯体工事の施工報告

Construction report on earth retaining work and substructure work using existing building, which has been reused once, in narrow area

▶キーワード：狭小地，既存基礎，山留構台，早朝搬入，夜間作業

藤原弘幸\*  
 工藤正崇\*  
 磯地靖貴\*  
 伏谷洋俊\*  
 櫻井一哉\*\*

\*西日本（支）京都松竹（出） \*\*西日本（支）建築設計部

## 概要

計画地は事業主の「創業の地」とされ、京都市中心部である河原町・新京極エリアに位置し、昭和 11 年と昭和 45 年に 2 度の改築・建替えを経た 2 世代の地下躯体を残していた。

唯一の搬出入ルートである新京極通りは様々な通行規制を受けていた。全ての工事車両は警察に通行許可を取得、原則 4 t 以下、通行可能時間帯は原則 05：00～09：00 の 4 時間、コンクリート打設に限り夜間（23：00～09：00）にて実施可能であった。

敷地南側には木造店舗等が敷地境界間際に立地し、既存地下躯体の撤去が困難であった為、その一部を山留めとして利用し、干渉部分は撤去する計画とした。既存躯体は未知数なところが多々あり、地下既存外壁の変位防止を徹底的に管理しなければ近隣建物の倒壊に直結するという難題を抱えていた。

本文では、前述のような様々な条件のもと、既存躯体を山留め利用した新築工事の基礎及び地下躯体の施工計画及び施工結果を報告する。

## 成果

- 5 つのエリア毎に 5 種類の山留計画を立案し、既存躯体の利用を工夫した。
- 作業スペースとして、既存躯体を利用した構台等の仮設計画を立案、実施した。
- 変状計測の管理と適切な対応により、近隣家屋に大きな影響を与えることなく地下工事を完了した。



写真一 着工時



写真二 搬出入ルート（新京極通り）